

夜市地区歓送迎のつどい



↑【上写真】歓送迎会に出席くださった転任・着任されるみなさん。

前列向かって右から、小田前支所長、木戸先生（前夜市幼）、古賀園長（前夜市幼）、松本校長（前夜市小）、吉岡先生（前夜市小）
後列向かって右から、小林支所長、羽崎先生（夜市小）、末永先生（夜市小）、魚谷先生（夜市小）、河野校長（夜市小）

転任・着任の方々からの挨拶の後、宴は佳境に入り、大いに盛り上がりを見せた。あちこちで、名残を惜しむ声や、はじめましてと自己紹介などが始まった。地区の情報交換なども欠かせない、夜市区ならではの集いである。
新任の河野夜市小学校校長先生の談、
「長いこと教員をやっていますが、地区をあげての歓送迎会を催してもらったのは初めてで、感激しています。この地区の教育力も、きつと高いのでしょね。」

やじうま通信

平成 27 年号
5 月

発行者：夜市地区
コミュニティ推進
協議会

☎ 0834-62-2707
(夜市公民館内)

ふれあいの旅開催



3月7日土曜日、今回は日帰りの旅なので、自ずと夜市から行ける範囲も決まってくる。一泊旅行ではないつも通過地点となっている掘り出し物の所へ行けるといふ楽しみ。日帰りだからこそ参加できる人たち。バスの中は新鮮な空気に包まれた。目的地は竹原。朝の連ドラ「マッサン」の出身地であるということ以外の予備知識なし。

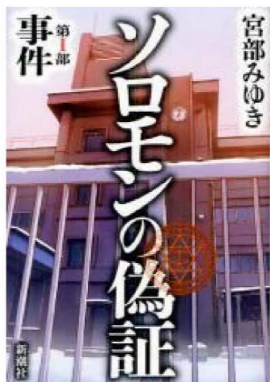
道の駅竹原に降り立ってから、ボランティアガイドの方の案内で、町並み保存地区をそぞろ歩く。江戸時代から続く町並みは竹原格子とも呼ばれる独特の格子戸を持つ、しっかりと落ち着いた町並みだった。古いお寺もあって、安芸の小京都と呼ばれる所以である。割と近いところにこんな素敵な町並みがあったという、少し得したような気分を味わうことができた。

町並み保存地区は塩田経営者の豪邸が並ぶ町でもある。竹原は晴れの日が多いことから塩田経営が盛んになったとのことだが、あろうことか

公民館文庫を読もう

ソロモンの偽証

宮部みゆき（新潮社）



ある中学校で、中学生の転落死体が発見された。校舎の屋上から突き落とされた犯人を目撃したという投書が、意

外な展開でマスコミに報道される。容疑をかけられたのは学校で定評のある不良であった。果たして真相は。中学生による裁判が始まる。被告人、検事、弁護士、陪審員、参考人役の中学生たちが、事件の真相に迫る。

上・中・下巻それぞれ700ページ、あわせて2,100ページにも及ぶ物語である。読み出したらとまらない面白さ。思わず夢中になり、あつという間に時間が過ぎる。

「コミュニティ活動の予定

5月13日（水）19時00分〜 総会
5月17日（日）10時00分〜15時00分
道の駅ソレーネ周年記念イベント
「ソレーネで遊ぼう」

この日は雨。

その後、世羅ワイナリーで食事、農園でイチゴ狩りをして、帰途に着いた。

バスの中での話も弾み、さらに多くの人たちと仲良くなれるのも、コミュニティのふれあいのたびの醍醐味である。



↑【上写真】竹原市の町並み保存区を歩くみなさん

→【右上写真】観光農園でのイチゴ狩り体験
【右下写真】竹原市のボランティアガイドの説明に聴き入るみなさん



自主防災組織役員研修会

夜市地区の防災訓練に関連して、少し前のことであるが、1月17日の土曜日、道の駅「ソレーネ周南」で、防災対応の研修会が行われた。この日は、夜市地区、戸田地区、小畑地区の3地区を対象の研修会。

まず最初は、DIGと呼ばれる図上訓練。夜市地区の地図上に、道路や公園、危険箇所や浸水区域などを書き込んでいくというもの。そして、地区として、災害の弱点や強みなどを考えて、発表する。ちなみに夜市地区の災害の弱点は、浸水区域や地すべり区域があるということ。反対に強みは、幹線道路やショッピングセンターがある。それにコミュニティがまとまっていることなどが、あげられた。夜市チームは、この図上訓練では優れたチームワークを発揮した。

次に、災害対応タイムラインという作業。大型で強い勢力の台風が接近中との想定。さて、自主防災では何をやるかということ。時系列的に考えていくというもの。最接近24時間前は、12時間前は、6時間前は。夜市チームはこのタイムラインについて、なかなかパワーを発揮できませんでした。

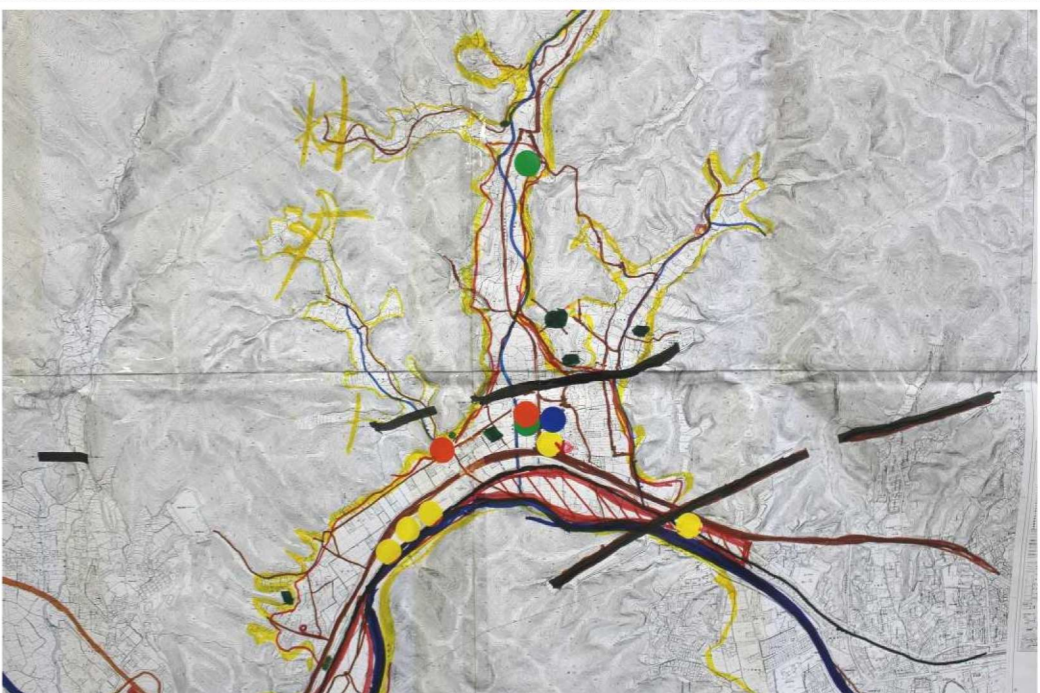
災害が起こって、その対応をすることを減災という。例えば、人を救助したり、炊き出しをしたりすることです。災害の被害をできるだけ少なくすることが、防災という。減災対応はできても、防災は難しい。地区

な防災に関する行事を行っていくとのことだ。



→【右写真】野外炊飯の様子
↑【上写真】炊飯用ビニール袋で炊いたご飯

住民の皆さんと一緒に防災について、研修したことを活かして考えていきたい。



→【右写真】図上訓練で作成した災害地図。危険箇所等が色分けされている



↑【写真】土のうづくりには汗を流す男性たち

自治会連合会総会開催

4月18日(土)に、今年度の自治会長集会在夜市公民館で行われた。新たに結成された団地661を加え、27自治会の自治会長さんたちが、今年度の行事や自治会の仕事などを確認されていた。

また、自治会連合会の26年度の決算や事業報告に続き、27年度の事業予定案や総額約65万円の予算案も承認され、27年度の活動が動き出す。

自治会連合会の会長は、冒頭の挨拶で、「当連合会は、夜市地区全体にかかる主に防災、防犯、環境などを担当しているが、住みよい夜市地区を作っていくために、社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会などと連携して、行事を行ってまいります。また、今年度は、特に防災に重点を置き、地区の自主防災組織とも協議をし、防

防災訓練を実施

東日本大震災(3.11)から4年目を迎えてまもなくの3月14日の土曜日に、夜市地区防災訓練が行われていた。震災の記憶を風化させてはならないとの狙いもある。対象は自主防災組織の役員と自治会長、自治会の防災担当委員、それに地区住民有志のみなさん。場所は的場公園。訓練に参加した人たちが、夜市支所にある防災用具を取りに行くところから始まった。

訓練は、土のう製作班と炊き出し班の二班に分かれて行われた。土のう製作班は、緊張した雰囲気の中、予定より早く作業が終了し、戸田駅西側の旧実証店舗「ゆーとぴや」跡地の近くに運ばれ、土のうステーションとした。これで、的場公園、旧伊賀バス回転場、戸田駅西と3箇所の土のうステーションが設置された。

一方の炊き出し班は、米と水をビニール袋に入れ、30分沸騰したお湯の中に浸けるとご飯ができるという緊急用の炊き方が試された。湯は防災用の鍋や火床が使われ、薪で沸かされた。また、防災用の灯油バーナーではカレーが作られていた。

最後に全員集合して、炊き出しのカレーライスを味わった。これがなかなかおいしくて、参加した人たちは和やかな雰囲気にもまれていた。自主防災組織では、これからもいろいろ

災マップの作成や防災訓練も視野に入れて取り組みたい。」と述べた。



↑【写真】自治会連合会総会の様子

地区歓送迎会に60人

たとえば、桜の花が咲いたと思ったら、すぐに散ったりする。春といっても3月の終わりから4月の初めにかけては、うれしさや物悲しさが交互に訪れる。そんな4月10日(金)に夜市地区歓送迎の集いが開催された。

今年は小学校の校長先生をはじめ4人の先生、幼稚園の廃園に伴い、園長先生はじめ2人の先生。そして市役所支所長とで、7人の人が退職または転任された。新たに小学校に6人の先生と市役所支所長を迎えた。

主催者のねぎらいと歓迎の言葉に続き、